●体験談●

文部科学省でのインターンシップ

大場 友梨
（中央大学法学部政治学科）

人と出会うこと。

学生がインターンシップに応募する動機は学生それぞれに異なると思う。就職活動に備えて、希望する就職先とのミスマッチを防止するためとか、流行だからなど、人それぞれにいろいろな動機があると思う。私が文部科学省でのインターンシップに応募した動機には、大学入学以来、教育行政に関心があったこと、公務員志望者として国家公務員の仕事を見て、職場の雰囲気を実体験してみたかったということもある。しかし、これらの動機以上に職場で働く人々と出会ってみたかったということが動機としてある。人との出会いが自分を成長させてくれる。インターンシップを経験することで普段の学生生活では出会うことのできない人々と関わることができるよい機会と考えたことが大きかった。

文部科学省学生支援課での私の実習期間は八月二日から九月一〇日と、一、二週間がほとんどのインターンシップ受入れの中では、長期の受入れをしていただいた。私は昨年、八王子市役所でインターンシップを経験したが、昨年のインターンシップの職場での実習期間が短かったこと、自分の積極性が足りなかったことから、職員の方と関わりをもつ機会が少なかったという反省があり、今回三〇日間のインターンシップを選んだ。

学生支援課では主に留学生関連の業務の手伝いをさせていただき、実習期間中には、独立行政法人日本学生支援機

構、外務省、独立行政法人国際協力機構、アジア学生文化協会、アジア科学教育経済発展機構を訪問し、職員の方から仕事内容についてのレクチャーを受けさせていただいた。また、長期留学生派遣制度運営委員会、就職採用情報交換連絡会議、中国大使館における中国政府奨学金留学生壮行会にも参加させていただくことができた。

訪問したそれぞれの機関や施設において、それぞれ目的やポリシーを持って留学生業務や国際交流に取り組んでいた。そこで働く方から話を聞くのは、とても楽しく、どの活動も興味深かった。また、国際交流や留学生について考えるよい機会となった。

そして、学生支援課における留学生業務を行うにあたり、私には疑問点があった。日本にいる留学生の中には国費による留学生もいる。留学生を受け入れるメリットはどのようなものがあるのかということである。訪問した場所ごとに留学生支援や受入れの目的は違ったが、文部科学省においては、留学生を受け入れることにより、その地域が発展し、また日本を知ってもらい、親日家を育てることで将来日本の大きな資産になるということであった。その意味を知り、長く続けていくことで成果が出てくる地道な事業であるが、将来的には大きな価値を生むものであることを知った。ニュースに出てくるような外交ではないが、大きな価値のある取組であり、こちらにはこちらのよさがある。日々の業務が国際社会に貢献しているというスケールの大きさを感じた。

留学経験者や留学中の友人は周りに多くいるが自分自身では留学しよう、国際交流しようなどと、考えたことのない私に国際交流、文化交流の重要性や留学生の抱える問題、日本がこれから国際社会でしなければならないことを知ることができた。教育行政や公共政策に興味を持ち大学での授業を選択してきたが、今回のインターンシップを経験したことでアジアの国々について、そしてアジアの国々と日本の関係についても学んでみたいと思うようになった。インターンシップを通して、自分の興味・関心の幅を広げることができたと思う。

大学生の夏休みに何をするか。旅行、サークル活動、バイト、勉強と、いろいろな選択肢がある。インターンシップもその選択肢のひとつである。何を行うにも自分に還元

されるものがあると思う。私はインターンシップを通じて自分では訪問することができない施設に行くことができ、普段の大学生活では出会うことのないはずの人々と出会い、話を聞くことができた。そして、国家公務員の職場の雰囲気や仕事を肌で感じる機会を得ることができた。インターンシップを通じて自分が学校で学んでいるものがどういうもので、将来どのような形で活かされるのかを知り、大学の講義が楽しくなる、そういった効果もインターンシップにはある。

インターンシップは職業意識の形成のために有効であるというが、それだけではなく、インターンシップでの経験は卒業前においても大学生活の重要性や自分の世界を広げてくれるきっかけとなるものであると思う。インターンシップは就職のためというだけでなく、今大学で学ぶ意味の再確認や自分の世界を広げるためにも有効なのではないだろうか。